

## 支部だより

2023/12/14 No.39 東京支部事務局

### 支部活動報告

間もなく本年も終わろうとしています。振り返ってみますと、5月末に東京支部の講師をお願いしていた萩原史郎先生が急逝されて、急遽、作品展作品選定講師は、山口高志先生に、例会講師は福田健太郎先生に代わっていただきました。お蔭様で、東京支部作品展も無事好評のうちに終了し、例会も順調に進めることが出来ている。お2人の先生には大変感謝しています。

#### 9月～11月の支部活動報告

##### ●第2回特別研究会

日時:2023年10月22日(日) 13時～17時

開催場所:京橋プラザ区民館1号洋室

参加者:17人(講評16人うち3人はビデオ報告)

講師:飯島勝先生

飯島勝先生は1956年生まれで、1996年「心の風景」で第4回前田真三賞を受賞、本年7月～8月に富士フォトサロン東京と大阪で写真展「何処へ」を開催された。

★講評会 13時から15時(1人2点、5～7分)

1点1点丁寧に講評していただき、各人2点の中より1点金を選んでいただいた。

最後に選ばれた金の作品より、優秀作品7点を選んでいただいた。

★講演「飯島 勝の世界」(写真展「何処へ」より)

15時10分～17時

先生の研ぎ澄まされた感性で、多くは大判カメラを使い、EV値1以下の夕暮れ時あるいは夜中に、我々が気づかないようなわずかな明るさの差をフィルムの長時間露光により魅力あふれる画像を作りだされている。

34点の作品について、都度質疑応答を入れながら解説していただいた。

我々と全く違う撮影スタイルと素晴らしい画像に出席者は感動した。

なお、終了後の懇親会には先生も参加いただい

た。

以下2つの例を紹介する。

1. (NO.6)暗い背景に浮かび上がる白い木を撮った作品。

冬の夕方、雪明りで木が白く浮かび上がる

10分から20分の長時間露光。長時間露光をするとカラーバランスが崩れブルーが出やすくなり、白がより強調される。

カメラを斜めにして、白い木を斜めに見せ、動感を出した。

2. (NO.16)冬の真夜中、月光下での川の流れを撮った作品。露光時間5時間半。

冬の真夜中で月が高いときに、東西に流れる川に向かい、月が逆光になり始めてシャッターを開く(夜中の1時ごろ)。朝4時ごろになると月は山に隠れるが、まだシャッターは開いたまま。そのままだと月は暖色に写るが、自分のイメージでは青のイメージがあり、青を入れたい。夜明けをまって、夜明けの空の青を入れて、暖色+青の画像とする。空のEV値が5になった時シャッターを閉じる(朝6時半ごろ)。

##### ●2023年秋の撮影会報告

撮影地 月山志津温泉付近及び鳥海山近辺

実施日:2023年10月29日(日)～31日(火)

参加者:4人(東京支部2人、埼玉支部1人、山形支部1人)

2023.10.29(日) 12時集合

2023.10.31(火) 13時解散

宿泊 10月29日:月山の宿かしわや

10月30日;湯楽里 鳥海温泉

初夏の撮影会に引き続き秋の撮影会も月山にした。今回は当初の予定には無かったが、月山に加え、鳥海山も入れた。

東京支部の参加者は、皆さんの他の計画と重なったためか当初4人であったので、関東5支部に声をかけさせていただいたところ、埼玉支部の方一人から参加の申し込みがあった。撮影案内は山形支部支部長の千葉昭男さんをお願いした。東京支部の参加者は最終的には2人だけになったが、参加を楽しみにされていたので、予定通り実行した。

詳細が「秋の撮影会に参加して」(後述)に記載されているので、ここでは写真で紹介する。

撮影は月山 地蔵沼から始まった。



29日午後 地蔵沼 陽射しが入った瞬間



30日早朝 姥沢駐車場 残り満月



30日午前 獅子ヶ鼻湿原 下から見上げて



31日早朝 遊佐町の田園地帯 朝日を浴びて



31日 午前 元滝 光を待つ

2人の参加者は、月山も鳥海山も初めてであり、見残した所も多々あるが、今後の撮影に生かせることを願っている。

#### ●東京支部第21回作品展(詳細後述)

11月3日(金)～11月9日(木)にかけて実施  
来場者数709人と多くの方々が来場された。銀座のCギャラリーの担当者が我々の写真展を大変ほめていたのが印象的だった。

作品展担当の佐藤直芳さん、DM・目録担当の野間芳子さんに感謝する。



(文責 井上武夫)

### 東京支部 第21回作品展を終えて

2023年11月3日(金)～11月9日(木)にかけて、第21回作品展「秀麗彩美」が、富士フォトギャラリー一銀座で開催されました。開催一週間の間に、700人を超える来場者をお迎えすることができました。

今年の春、井上支部長から作品展担当役員の任を受け、開催準備は試行錯誤の日々でした。それでも、支部長、会員の皆様のご支援により、無事に終えることができました。この場をお借りして御礼申し上げます。

主な来場者の方々

JNP 関東地区各支部の支部長、会員の皆様をはじめ、写真愛好家、知人、友人の方々。

写真家の林惣一さん、川隅功さん、飯島勝さん、秦達夫さん、福田健太郎さん、前川彰一さん、佐藤尚さん、風景写真出版の永原編集長などのの方々。

まだまだお名前を掲載できない程、多くの方々にご来場いただき、ご感想、ご講評していただきました。ありがとうございました。

また今年、ご指導頂いていた萩原史郎先生が逝去され、我々、東京支部会員は深い悲しみと共に、作品展開催をご一緒できなかった無念の思いでありました。最後に写真選考して頂きました山口高志先生には、改めて感謝、御礼申し上げます。  
(文責 佐藤直芳)



作品展スタッフメンバーと川隅先生



5支部の役員の方々

## 秋の撮影会に参加して

2023年10月29日～31日にかけての「月山・鳥海山」における東京支部の秋の撮影会に参加しました。山形支部の支部長千葉さんと同行して頂き、埼玉支部の長谷川さん、井上支部長、須加尾4名での実施となりました。例年では紅葉には少し遅いタイミングの日程でしたが、幸い今年は紅葉が遅れていたため見頃に近い状況でした。

初日は、12時に宿泊先の「月山の宿 かしわや」に集合予定。30分くらい早くにつくと天気の状態がいいのですぐに「地蔵沼」へ。黄葉で染まる沼か

ら撮影を開始。天気にも恵まれ、陽も射し、雨も降り、曇り空にもなりと「地蔵沼」周辺での撮影を堪能しました。

その後、旧道を通り「中台沼」へ移動。この旧道が車窓から見るには見事な黄葉。しかし止める場所も少なく一か所だけ止まって目的地へ。「中台沼」は雨模様。雨でぬれたブナ林や雨のそぼ降る沼を撮影。私はひたすらしっかりと濡れたブナとその落ち葉の撮影しました。夜は美味しいご飯を食べながらお酒も楽しみました。

2日目は姥沢駐車場付近での早朝撮影。明るくなるのを待っていると月が雲間からいい雰囲気を出して来たためこちらを撮影。やがて明るくなり樹々に日が射し込み輝きだしたり、雲が色づいてきました。光の状況に合わせてながら、狙う樹を探し撮影場所を変えながらいろいろと撮ってみました。

その後コンビニでお昼ご飯を買い、鳥海山方面へ移動。10時くらいから「獅子が鼻湿原」で撮影を開始。今年は熊の出没も各地で多いため、笛を吹いたり井上さんの火薬銃を鳴らしながらバラバラにならないように遊歩道を移動。異形巨木等を撮影したり水に映る黄葉を移しながら5時間余り。有名な「あがりこ大王」や「あがりこ女王」には寄らず、「鳥海まりも」見られず、予想外のアップダウンもありましたが、自然の中で昼食を食べ湿原の黄葉撮影を楽しみました。ただ個人的にはなかなかポイントとなるものを見つけられず、難しい撮影となってしまいました。その後鳥海山の全景をみたり、海に沈む夕日の撮影をしながら2日目の宿へ向かいました。

3日目は「元滝伏流水」の撮影。向かう途中で田んぼの中から鳥海山の撮影。朝露を取り入れた朝日の情景も撮影出来ました。「元滝伏流水」では伏流水の滝の情景や晩秋の渓谷の流れをそれぞれの視点で撮影。当初は10時くらいに次の撮影場所へ移動予定でしたが、光の入るのを待ちたいということで1時間余り延長に。その状況を撮影してから釜磯海岸へ移動。

釜磯海岸は、鳥海山の伏流水が砂浜から湧き出る不思議な海岸。本来は干潮時間につく予定でしたが、前撮影地を延長したため干潮には間に合い

ませんでした。浜からポコポコ伏流水が湧き出ているのは不思議な光景。その伏流水の湧き出ているところ、その流れで出来た砂浜模様などを撮影して3日間の撮影を終了。

最後に山形支部の千葉さんのおすすめの道の駅「鳥海 ふらっと」で直売の焼き魚を買って食堂へ持ち込み、ご飯セットと併せて焼き魚定食として美味しい焼き魚とご飯を堪能。

これで「秋の撮影会」の全行程が終了。参加人数は残念ながら少なかったです。黄葉の月山・鳥海山での撮影を楽しみました。企画して下さいました井上支部長、同行して案内して下さいました山形支部の千葉支部長、埼玉支部から参加して下さいました長谷川さんには大変お世話になりました。普段なかなか遠くに行かれない私にとってはとても貴重な撮影会になりました。(文責 須加尾 浩)

### 写友広場

2023年9月～12月の間には以下の方が入賞、入選されました。

★JPA 公募展 入選

春の訪れ

藤野治雄

★JPA 公募展 入選

「湖面の星空」

佐々木節子

★フォトコン 上級中級マンスリーフォトコンテスト

自由作品の部 1月号入選

疾走

藤野治雄

★PFJ 公募展 PFJ 大賞

終焉

鈴木雍人

★PFJ 公募展 彩り賞

水面に躍る

野間芳子

★PFJ 公募展 入選

寒暁

戸張伸子

★富士フィルム Xtension 展 入選

夕陽の輝き

戸張伸子

(文責 戸張伸子)

### 事務局より

今後の予定

★12月24日(日)第4回定例研究会

★1月28日(日) 総会

★3月11日(月)～12日(火)

JNP 関東5支部春季交流撮影会

荒崎海岸

★3月17日(日)(予定)

2024年第1回定例研究会

(文責 井上武夫)

### 編集後記

今年は3年間続いたコロナが5類扱いに変わり、ようやく遠慮せずに撮影にでかけられるようになりました。皆様も大いに撮影を楽しまれたことと思います。

11月には毎年の作品展が開催され大勢の方に見ていただきました。

私だけでなく皆様も写真を撮る友人、撮らない友人に声をかけて、作品展が年に1度集まるきっかけになっている方は多いかと思えます。

写真を撮らない友人のひとりが、Kさんのピンク色の美しい朝焼けの写真を見て、「きれいね！カメラに何かつけているの？どうすればこんなきれいに撮れるの？」と尋ねました。私は「冬の氷点下の寒い朝、夜明け前に行って待っていると、日の出前のほんの一瞬にこの朝焼けを見ることができるよ」と答えました。夜明け前にマジックアワーと呼ばれるブルーと赤の美しい空が見られること。条件がそろわないと待っていても必ず朝焼けが見られるわけではないことも話しました。

友人は驚いて「たいへんなのね。私には無理！」と言いました。

その美しい朝焼けや雲海に出会えた時は、たいへんだったことも忘れてしまいます。

風景写真を撮る人達にとっては早朝3時や4時に起きて撮影に行くのは常識ですが、私が夫に誘われて風景写真を撮り始めた頃は、暗いし寒いしなんでこんなつらいことをしなくてはいけないのかなと思ったものでした。

10数年前、今は亡き藤田さんが、東京支部に入会した時、初めての撮影会が栃木県の六方沢だったそうです。4時に現地集合と言われた藤田さんは、バスに乗って夕方の4時に集合場所の宿にやってきました。たまたま夫が夕方の様子を見に行くところで、藤田さんを見つけて車に乗せてあげたそ

うです。藤田さんは「4時集合って午前4時なの！」とたいへん驚いたそうです。その後の藤田さんが大活躍されたことは言うまでもありません。

風景写真は厳しくも楽しい世界です。体力気力が必要な世界です。

皆様も大自然が見せてくれる一瞬の素晴らしいドラマに魅せられて風景写真を続けていらっしゃることと思います。

来年はどんな素晴らしいドラマに出会えることでしょう！健康に注意して充実した1年が過ごせますようお祈りいたします。

今年は5月の定例研究会の翌日に萩原先生が急逝されるというショックな悲しいできごとがありました。でも先生の素晴らしい作品や言葉はいつまでも残り、私達の心の中にも残り続けていくことと思います。

最後に1年間支部だよりへのご協力ありがとうございました。来年もどうぞよろしくお願いいたします。

( 文責 戸張伸子 )